

授業科目名：	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原田公人、新谷朋子
聴覚障害の心理・生理・病理Ⅰ			担当形態： オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：聴）		
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 聴覚障害児の生理・病理について、耳の構造と機能、聴覚障害の種類と把握方法、聴力検査、代表的な耳疾患についての基礎知識を身につける。 (2) 聴覚障害が聴覚障害のある子どもの発達に与える影響について理解する。 (3) 言語障害についての基礎知識を身につける。			
授業の概要			
本授業では、主として聴覚障害児の生理・病理の概要について取りあげる。生理については、耳の構造と機能、聴覚障害の種類と把握方法、聴力検査などについて学習する。また、病理については、代表的な耳疾患について学習するとともに、耳疾患と聴覚的困難の関係について学習する。言語障害については、特に、構音障害、吃音、音声言語コミュニケーションを取り上げ、これらの状態像や対応について学習する。			
授業計画			
第1回：聴覚障害とは（担当：原田） 第2回：聴覚障害が子どもの発達に与える影響（担当：原田） 第3回：耳の構造と機能①（聴覚伝導路、外耳、中耳）（担当：新谷） 第4回：耳の構造と機能②（内耳、聴覚中枢）（担当：新谷） 第5回：聴覚障害の種類（伝音難聴、感音難聴、混在性難聴）、両耳聴（担当：原田） 第6回：聴覚障害の観察による把握（担当：原田） 第7回：聴覚障害の検査による把握（担当：原田） 第8回：聴力検査の実際①（各種検査法）（担当：新谷） 第9回：聴力検査の実際②（乳幼児への聴力検査と新生児聴覚スクリーニング）（担当：新谷） 第10回：代表的な耳疾患①（外耳、中耳）（担当：新谷） 第11回：代表的な耳疾患②（内耳）（担当：新谷） 第12回：耳疾患と聴覚的困難の関係（担当：新谷） 第13回：聴覚障害児の言語獲得過程（担当：原田） 第14回：言語障害（構音障害、吃音）（担当：原田） 第15回：音声言語コミュニケーション（担当：原田） 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
「学修の具体的なすすめ方」のテーマに沿ったオンデマンドスクーリング用動画教材を計3回視聴する。視聴後は、研究課題に対するレポートを作成する。			
テキスト			
(1) 喜多村健 編著（2002）『言語聴覚士のための聴覚障害学』医歯薬出版株式会社、978-4-263-21265-3 (2) 日本聴覚医学会編（2024）『聴覚検査の実際（改訂5版）』南山堂、978-4-525-37045-9			
参考書・参考資料等			
日本聴覚医学会 編（2017）『聴覚検査の実際（第4版）』、南山堂 9784525370442 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（2020）『特別支援教育 基礎・基本 2020』、ジエース新社 978-4-86371-548-6			
学生に対する評価			
スクーリング評価（25％）、レポート評価（25％）、科目修得試験（50％）			